

4. 原子燃料サイクル施設操業状況

(事 業 者 報 告)

表中の記号

- * : 検出限界未満 (放射能の分析)
- ** : 分析値が読み取れる限度を下回っている場合 (フッ素分析)
- / : 放出実績なし

(1) ウラン濃縮工場の操業状況

① 運転状況及び主要な保守状況 (平成26年4月～平成27年3月)

運 転 状 況	運転単位	26年4月	26年5月	26年6月	26年7月	26年8月	26年9月	
	RE-1A	※1						
	RE-1B	※2						
	RE-1C	※3						
	RE-1D	※4						
	RE-2A	※5					→	
	RE-2B	※6						
	RE-2C	※7						
主 要 な 保 守 状 況		加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・カスケード設備 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・カスケード設備 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・カスケード設備 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備	加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備 ・検査設備及び計量設備	加工施設保安規定に基づく施設 定期自主検査 ・UF ₆ 処理設備 ・均質・ブレディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・放射線監視・測定設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備 ・貯蔵設備	
	備 考		<p>・運転単位 第一期分 (RE-1) : 150 t SWU/年 × 4 運転単位 第二期分 (RE-2) : 150 t SWU/年 × 3 運転単位</p> <p>※1 RE-1A : 生産運転停止中 (H12. 4. 3～) ※2 RE-1B : 生産運転停止中 (H14. 12. 19～) ※3 RE-1C : 生産運転停止中 (H15. 6. 30～) ※4 RE-1D : 生産運転停止中 (H17. 11. 30～) ※5 RE-2A : 150 t SWU/年のうち、75 t SWU/年は生産運転中 (H25. 5. 21～) ※6 RE-2B : 生産運転停止中 (H22. 12. 15～) ※7 RE-2C : 生産運転停止中 (H20. 2. 12～)</p>					

運 転 状 況	運転単位	26年10月	26年11月	26年12月	27年1月	27年2月	27年3月	
	RE-1A	※1						
	RE-1B	※2						
	RE-1C	※3						
	RE-1D	※4						
	RE-2A	※5						
	RE-2B	※6						
	RE-2C	※7						
主 要 な 保 守 状 況	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査	
	<ul style="list-style-type: none"> UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 放射線監視・測定設備 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 貯蔵設備 	<ul style="list-style-type: none"> カスケード設備 UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 搬送設備 放射線監視・測定設備 管理区域 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 検査設備及び計量設備 貯蔵設備 	<ul style="list-style-type: none"> カスケード設備 UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 貯蔵設備 	<ul style="list-style-type: none"> UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 	<ul style="list-style-type: none"> UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 	<ul style="list-style-type: none"> UF₆処理設備 均質・ブレディング設備 付着ウラン回収設備 気体廃棄物廃棄設備 液体廃棄物廃棄設備 非常用設備 		
	<p>・運転単位</p> <p>第一期分 (RE-1) : 150 t SWU/年 × 4 運転単位</p> <p>第二期分 (RE-2) : 150 t SWU/年 × 3 運転単位</p>							
	<p>※1 RE-1A : 生産運転停止中 (H12. 4. 3~)</p> <p>※2 RE-1B : 生産運転停止中 (H14. 12. 19~)</p> <p>※3 RE-1C : 生産運転停止中 (H15. 6. 30~)</p> <p>※4 RE-1D : 生産運転停止中 (H17. 11. 30~)</p> <p>※5 RE-2A : 150 t SWU/年のうち、75 t SWU/年は生産運転中 (H25. 5. 21~)</p> <p>※6 RE-2B : 生産運転停止中 (H22. 12. 15~)</p> <p>※7 RE-2C : 生産運転停止中 (H20. 2. 12~)</p>							
	備 考							

② 放射性物質及びフッ素化合物の放出状況（平成26年4月～平成27年3月）

(a) ウラン濃縮施設

放射性廃棄物等の種類		測定の箇所	平均濃度				管理目標値
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
ウラン	気体	排気口A	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	2×10 ⁻⁸ (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	1×10 ⁻³ (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口A	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	0.1 (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	** (mg/l)	** (mg/l)	** (mg/l)	** (mg/l)	1 (mg/l)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10 ⁻⁹ (Bq/cm ³) 以下 液体 : 1×10 ⁻⁴ (Bq/cm ³) 以下 フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10 ⁻³ (mg/m ³) 以下 液体 : 0.1 (mg/l)					

(b) その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物等の種類		測定の箇所	平均濃度				管理目標値
			第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
ウラン	気体	排気口B	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	2×10 ⁻⁸ (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	1×10 ⁻³ (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口B	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	** (mg/m ³)	0.1 (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	** (mg/l)	** (mg/l)	** (mg/l)	** (mg/l)	1 (mg/l)
備考		ウランの検出限界濃度は次のとおりである。 気体 : 2×10 ⁻⁹ (Bq/cm ³) 以下 液体 : 1×10 ⁻⁴ (Bq/cm ³) 以下 フッ素化合物の測定値の読み取れる限度は次のとおりである。 気体 : 4×10 ⁻³ (mg/m ³) 以下 液体 : 0.1 (mg/l)					

(2) 低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業状況

① 廃棄物受入れ・埋設数量及び主要な保守状況（平成26年4月～平成27年3月）

	第1四半期				第2四半期			
	26年			四半期 合計	26年			四半期 合計
	4月	5月	6月		7月	8月	9月	
受入れ数量	560本	2,760本	2,960本	6,280本	0本	0本	800本	800本
埋設数量	360本	2,160本	1,800本	4,320本	2,160本	0本	0本	2,160本
主要な 保守状況	実績なし	実績なし	廃棄物埋設施設保安規定に基づく吊り上げ高さ検査 ・2号埋設クレーン		実績なし	実績なし	実績なし	
備考	<ul style="list-style-type: none"> 受入れ数量：廃棄体を低レベル廃棄物管理建屋に搬入した本数 埋設数量：廃棄体を埋設設備に定置した本数 							

	第3四半期				第4四半期				合計	前年度末 合計
	26年			四半期 合計	27年			四半期 合計		
	10月	11月	12月		1月	2月	3月			
受入れ数量	2,680本	0本	0本	2,680本	0本	0本	2,048本	2,048本	11,808本 272,427本	260,619本
埋設数量	1,080本	0本	0本	1,080本	0本	1,800本	1,080本	2,880本	10,440本 270,619本	260,179本
主要な 保守状況	実績なし	実績なし	実績なし		実績なし	実績なし	実績なし			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 合計欄の上段は年度合計、下段は累積合計を示す。 受入れ数量：廃棄体を低レベル廃棄物管理建屋に搬入した本数 埋設数量：廃棄体を埋設設備に定置した本数 									

② 放射性物質の放出状況 (平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)

放射性廃棄物の種類		測定箇所	平均濃度				管理目標値
			第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	
気体	H-3	排気口 C	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	5×10 ⁻⁴ (Bq/cm ³)
	Co-60	排気口 C	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	3×10 ⁻⁷ (Bq/cm ³)
	Cs-137	排気口 C	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	1×10 ⁻⁶ (Bq/cm ³)
液体	H-3	サンフ°ルタンク	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	6×10 ⁰ (Bq/cm ³)
	Co-60	サンフ°ルタンク	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	1×10 ⁻² (Bq/cm ³)
	Cs-137	サンフ°ルタンク	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	/ (Bq/cm ³)	7×10 ⁻³ (Bq/cm ³)
備考							

③ 地下水中の放射性物質の濃度測定結果（平成26年4月～平成27年3月）

測定箇所	H-3 (Bq/cm ³)				Co-60 (Bq/cm ³)				Cs-137 (Bq/cm ³)			
	第1 四半 期	第2 四半 期	第3 四半 期	第4 四半 期	第1 四半 期	第2 四半 期	第3 四半 期	第4 四半 期	第1 四半 期	第2 四半 期	第3 四半 期	第4 四半 期
地下水監視設備（1）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（2）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（3）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（4）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（5）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（6）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
地下水監視設備（7）	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
法に定める 濃度限度	6×10^1				2×10^{-1}				9×10^{-2}			
備考	<p>・法に定める濃度限度：「核燃料物質の加工の事業に関する規則等の規定に基づき、線量限度等を定める告示」（平成12年科学技術庁告示第13号）</p> <p>検出限界濃度は次のとおりである。</p> <p>H-3 : 6×10^{-1} (Bq/cm³) 以下 Co-60 : 1×10^{-3} (Bq/cm³) 以下 Cs-137 : 7×10^{-4} (Bq/cm³) 以下</p>											

(3) 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの操業状況

① 廃棄物受入れ・管理数量及び主要な保守状況（平成26年4月～平成27年3月）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	前年度未合計
ガラス固化体受入れ数量	132本	0本	0本	0本	132本 1,574本	1,442本
ガラス固化体管理数量	0本	0本	104本	28本	132本 1,574本	1,442本
主要な保守状況	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ 収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・ 廃水貯槽の漏えい水の検知装置 ・ 廃水貯槽の水位の測定等を行う計測制御設備 ・ ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒 ・ 廃棄物管理施設	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ 収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・ 廃水貯槽の漏えい水の検知装置 ・ 換気設備 ・ 収納管排気設備	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ ガラス固化体の冷却空気温度の測定等を行う計測制御設備 ・ 収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・ 廃水貯槽の漏えい水の検知装置 ・ 廃棄物管理施設	廃棄物管理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 ・ ガラス固化体の冷却空気温度の測定等を行う計測制御設備 ・ 収納管排気設備の入口圧力の測定等を行う計測制御設備 ・ 廃水貯槽の漏えい水の検知装置 ・ 廃水貯槽の水位の測定等を行う計測制御設備 ・ 貯蔵建屋床面走行クレーン ・ ガラス固化体受入れ・貯蔵建屋換気筒 ・ 放射線管理用固定式モニタ ・ 廃棄物管理施設 ・ 受入れ建屋天井クレーン ・ 輸送容器搬送台車 ・ ガラス固化体検査室天井クレーン		
備考	・ 合計欄の上段は年度合計、下段は累積合計を示す。 ・ ガラス固化体受入れ数量：ガラス固化体受入建屋に搬入した本数 ・ ガラス固化体管理数量：ガラス固化体を貯蔵ピットに収納した本数					

② 放射性物質の放出状況（平成26年4月～平成27年3月）

放射性廃棄物の種類	測定箇所	平均濃度				管理目標値	
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
気体	放射性ルテニウム	排気口D	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	1×10 ⁻⁷ (Bq/cm ³)
	放射性セシウム	排気口D	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	* (Bq/cm ³)	9×10 ⁻⁷ (Bq/cm ³)
備考	検出限界濃度は次に示すとおりである。 放射性ルテニウム : 1×10 ⁻⁸ (Bq/cm ³) 以下 放射性セシウム : 4×10 ⁻⁹ (Bq/cm ³) 以下						

(4) 再処理工場の操業状況

① 使用済燃料受入れ量、再処理量及び在庫量（貯蔵数量）並びに主要な保守状況（平成26年4月～平成27年3月）

		第1四半期	第2四半期
受入れ量	PWR 燃料	0 体	14 体
		0 t・Upr	約6 t・Upr
	BWR 燃料	0 体	0 体
		0 t・Upr	0 t・Upr
再処理量	PWR 燃料	0 体	0 体
		0 t・Upr	0 t・Upr
	BWR 燃料	0 体	0 体
		0 t・Upr	0 t・Upr
在庫量 (四半期末)	PWR 燃料	3,458 体	3,472 体
		約1,472 t・Upr	約1,479 t・Upr
	BWR 燃料	8,550 体	8,550 体
		約1,478 t・Upr	約1,478 t・Upr
主要な保守状況	再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 (使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、燃料取出し設備、安全冷却水系（使用済燃料の受入れ及び貯蔵用）、再処理施設（使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に限る）全体、せん断処理施設、せん断処理設備及び溶解器設備、せん断処理施設及び溶解施設、せん断処理・溶解廃ガス処理設備、溶解施設、溶解器設備、分離施設、分配設備、精製施設、プルトニウム精製設備、脱硝施設、ウラン・プルトニウム混合脱硝設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、酸及び溶媒の回収施設、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、液体廃棄物の廃棄施設、気体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全冷却水系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、放射線管理施設、その他再処理設備の附属施設)	再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 (使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、安全冷却水系（使用済燃料の受入れ及び貯蔵用）、再処理施設（使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に限る）全体、せん断処理・溶解器設備、溶解器設備、分配設備、精製施設、プルトニウム精製設備、脱硝施設、ウラン・プルトニウム混合脱硝設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備、ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備、液体廃棄物の廃棄施設、気体廃棄物の廃棄施設、固体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全冷却水系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、放射線管理施設、その他再処理設備の附属施設)	
	備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「t・Upr」：照射前金属ウラン質量換算 ・受入れ量及び再処理量のウラン量については端数処理しているため、必ずしも一致しない。 	

		第3四半期	第4四半期	合計	前年度末合計
受入れ量	PWR 燃料	0 体	0 体	14 体	3,914 体
				3,928 体	
	BWR 燃料	0 体	11 体	11 体	9,796 体
				9,807 体	
再処 理量	PWR 燃料	0 t・Upr	0 t・Upr	約 6 t・Upr	約 1,678 t・Upr
				約 1,684 t・Upr	
	BWR 燃料	0 t・Upr	約 2 t・Upr	約 2 t・Upr	約 1,697 t・Upr
				約 1,699 t・Upr	
在 庫 量 (四 半 期 末)	PWR 燃料	0 体	0 体	0 体	456 体
				456 体	
	BWR 燃料	0 t・Upr	0 t・Upr	0 t・Upr	約 206 t・Upr
				約 206 t・Upr	
PWR 燃料	0 体	0 体	0 体	1,246 体	
			1,246 体		
BWR 燃料	0 t・Upr	0 t・Upr	0 t・Upr	約 219 t・Upr	
			約 219 t・Upr		
主 要 な 保 守 状 況	PWR 燃料	3,472 体	3,472 体	3,472 体	3,458 体
		約 1,479 t・Upr	約 1,479 t・Upr	約 1,479 t・Upr	約 1,472 t・Upr
	BWR 燃料	8,550 体	8,561 体	8,561 体	8,550 体
		約 1,478 t・Upr	約 1,480 t・Upr	約 1,480 t・Upr	約 1,478 t・Upr
備 考	再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 (使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、燃料取出し設備、安全冷却水系 (使用済燃料の受入れ及び貯蔵用)、再処理施設 (使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に限る) 全体、せん断処理・溶解廃ガス処理設備、溶解設備、分離施設、精製施設、プルトニウム精製設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、高レベル廃液濃縮設備、酸及び溶媒の回収施設、第 2 酸回収系、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、前処理建屋換気設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備、液体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全冷却水系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、放射線管理施設、その他再処理設備の附属施設)		再処理施設保安規定に基づく施設定期自主検査 (使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設、プール水浄化・冷却設備、安全冷却水系 (使用済燃料の受入れ及び貯蔵用)、再処理施設 (使用済燃料の受入れ及び貯蔵に係る施設に限る) 全体、せん断処理・溶解廃ガス処理設備、溶解設備、分離施設、分配設備、精製施設、プルトニウム精製設備、高レベル廃液ガラス固化設備、高レベル廃液ガラス固化廃ガス処理設備、前処理建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋塔槽類廃ガス処理設備、精製建屋塔槽類廃ガス処理設備、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備、高レベル廃液ガラス固化建屋塔槽類廃ガス処理設備、分離建屋換気設備、精製建屋換気設備、高レベル廃液ガラス固化建屋換気設備、制御建屋中央制御室換気設備、液体廃棄物の廃棄施設、気体廃棄物の廃棄施設、固体廃棄物の廃棄施設、安全圧縮空気系、安全蒸気系、補給水設備、非常用所内電源系統、漏えい検知装置等、その他再処理設備の附属施設)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「t・Upr」：照射前金属ウラン質量換算 ・合計欄の上段は年度合計、下段は累積合計を示し、在庫量については年度末の在庫量を示す。 ・端数処理した値のため、年度合計 (t・Upr) は各四半期を加えた数値と、累積合計 (t・Upr) では、前年度末合計に年度合計を加えた数値と必ずしも一致しない。 ・受入れ量及び再処理量のウラン量については端数処理しているため、必ずしも一致しない。 				

② 製品の生産量（実績）（平成26年4月～平成27年3月）

	生産量	
	ウラン製品 (ウラン酸化物製品)	プルトニウム製品 (ウラン・プルトニウム混合酸化物製品)
第1四半期	0 t・U	0 kg
第2四半期	0 t・U	0 kg
第3四半期	0 t・U	0 kg
第4四半期	0 t・U	0 kg
年度合計	0 t・U	0 kg
累計	約 364 t・U	約 6,656 kg
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ウラン製品量は、ウラン酸化物製品の金属ウラン質量換算とする。なお、ウラン試験に用いた金属ウラン（51.7 t・U）は、ウラン製品には含めていない。 ・プルトニウム製品量は、ウラン・プルトニウム混合酸化物の金属ウラン及び金属プルトニウム（1：1）の合計質量換算とする。 ・四半期及び年度合計の生産量については端数処理しているため、必ずしも一致しない。 	

③ 放射性物質の放出状況（平成26年4月～平成27年3月）

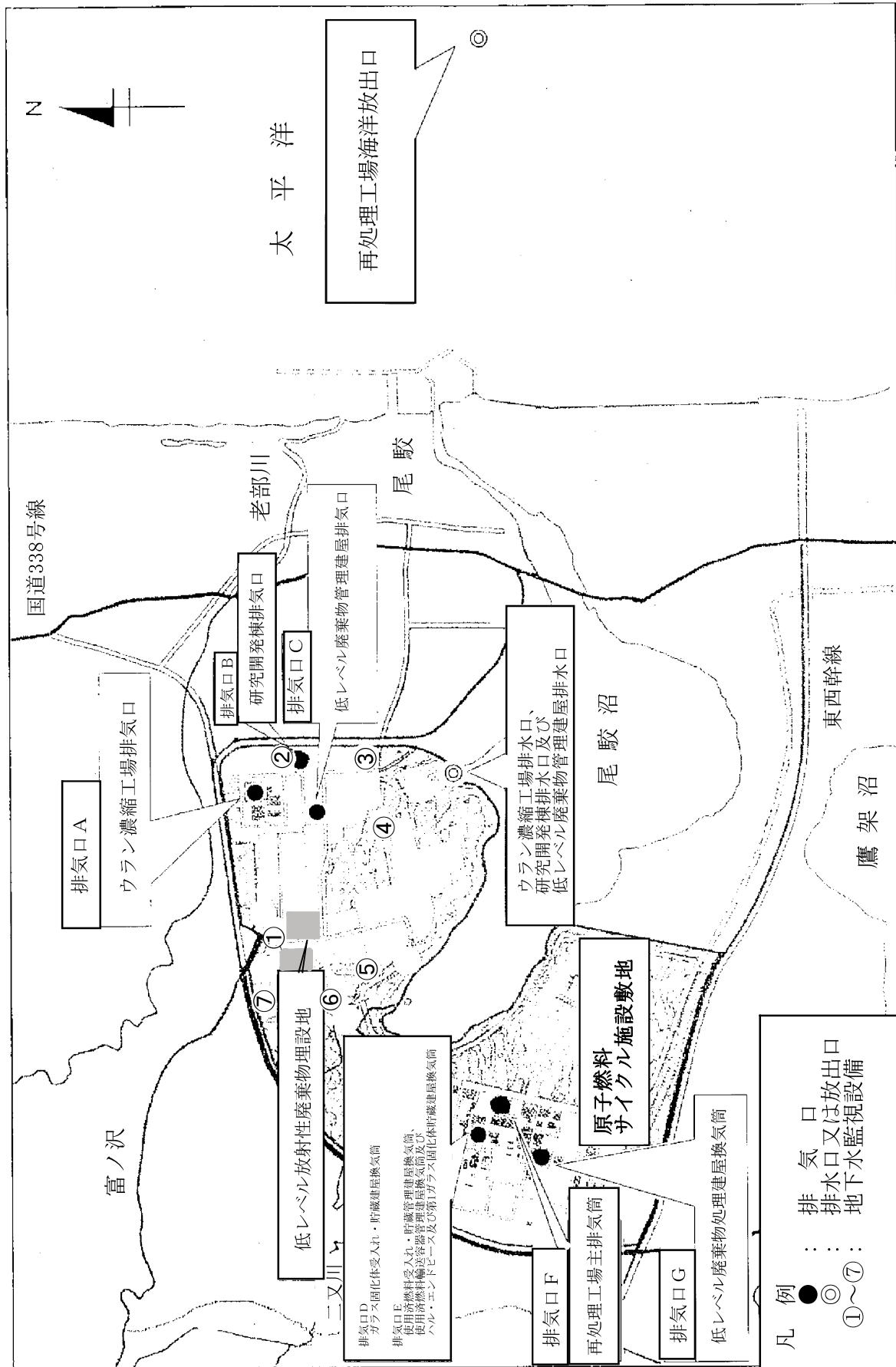
(a) 放射性液体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度合計	
H-3 (放出前貯槽)	1.4×10^{11} (Bq)	1.0×10^{11} (Bq)	3.7×10^{10} (Bq)	4.2×10^{10} (Bq)	3.2×10^{11} (Bq)	1.8×10^{16} (Bq)
I-129 (放出前貯槽)	3.5×10^6 (Bq)	2.7×10^6 (Bq)	2.0×10^6 (Bq)	3.7×10^6 (Bq)	1.2×10^7 (Bq)	4.3×10^{10} (Bq)
I-131 (放出前貯槽)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.7×10^{11} (Bq)
その他α線を 放出する核種 (放出前貯槽)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.8×10^9 (Bq)
その他α線を 放出しない核種 (放出前貯槽)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	2.1×10^{11} (Bq)
備考	<p>放射性物質の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm³)に排水量(cm³)を乗じて求め ている。</p> <p>検出限界濃度は次に示すとおりである。</p> <p>H-3 : 2×10^{-1}(Bq/cm³) 以下 I-129 : 2×10^{-3}(Bq/cm³) 以下 I-131 : 2×10^{-2}(Bq/cm³) 以下 その他α線を放出する核種 : 4×10^{-3}(Bq/cm³) 以下 その他α線を放出しない核種 : 4×10^{-2}(Bq/cm³) 以下</p>					

(b) 放射性気体廃棄物の放射性物質の放出量

核種 (測定箇所)	放出量					年間放出 管理目標値
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度合計	
Kr-85 (排気口E, F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.3×10^{17} (Bq)
H-3 (排気口E, F, G)	2.7×10^{10} (Bq)	2.4×10^{10} (Bq)	3.0×10^{10} (Bq)	2.4×10^{10} (Bq)	1.0×10^{11} (Bq)	1.9×10^{15} (Bq)
C-14 (排気口F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	5.2×10^{13} (Bq)
I-129 (排気口E, F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.1×10^{10} (Bq)
I-131 (排気口F)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	1.7×10^{10} (Bq)
その他 α 線を 放出する核種 (排気口E, F, G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	3.3×10^8 (Bq)
その他 α 線を 放出しない核種 (排気口E, F, G)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	* (Bq)	9.4×10^{10} (Bq)
備考	<p>放射性物質の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm³)に排気量(cm³)を乗じて求め ている。</p> <p>排気口Eは、使用済燃料受入れ・貯蔵建屋換気筒、ハル・エンドピース及び第1ガラス固化体 貯蔵建屋換気筒、使用済燃料輸送容器管理建屋換気筒の排気口であり、これらのうちいずれかの 排気口で測定している核種について放出量を記載している。</p> <p>検出限界濃度は次に示すとおりである。</p> <p>Kr-85 : 2×10^{-2} (Bq/cm³) 以下 H-3 : 4×10^{-5} (Bq/cm³) 以下 C-14 : 4×10^{-5} (Bq/cm³) 以下 I-129 : 4×10^{-8} (Bq/cm³) 以下 I-131 : 7×10^{-9} (Bq/cm³) 以下 その他α線を放出する核種 : 4×10^{-10} (Bq/cm³) 以下 その他α線を放出しない核種 : 4×10^{-9} (Bq/cm³) 以下</p>					

図 原子燃料サイクル施設の排気口、排水口、放出口及び地下水監視設備位置図



参 考 資 料

1. モニタリングポスト測定結果

(1) 再処理事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率（低線量率計）
- ② 大気中の気体状 β 放射能（クリプトン-85換算）

(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト

- ① 空間放射線量率（低線量率計）

2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果

4. 気象観測結果

- ① 風速
- ② 降水量
- ③ 大気安定度
- ④ 風配図

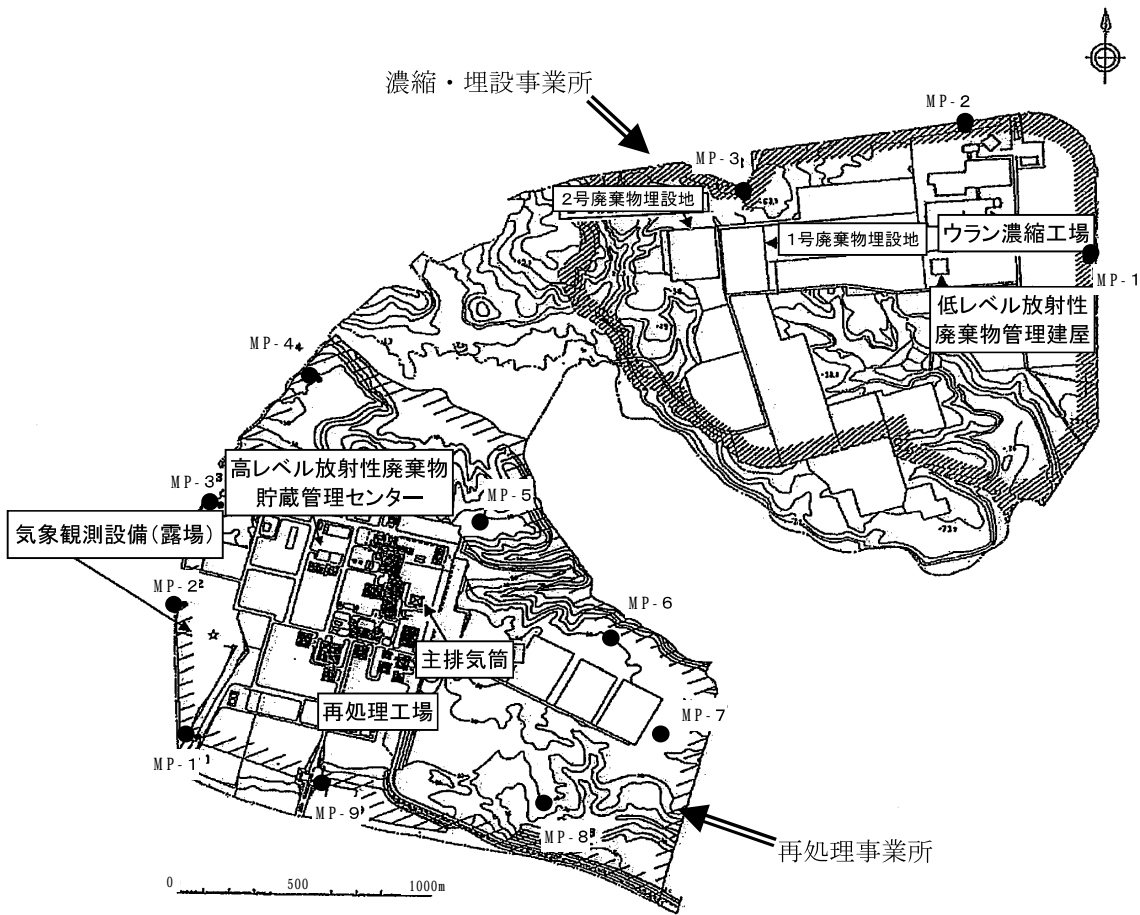


図 モニタリングポスト、主排気筒、気象観測設備配置図

1. モニタリングポスト測定結果

(1) 再処理事業所モニタリングポスト (平成26年4月 ~ 平成27年3月)

①空間放射線量率 (低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	16	29	14	61	
	5月	17	34	15		
	6月	16	31	15		
	7月	17	32	15		
	8月	17	45	15		
	9月	17	39	15		
	10月	17	45	16		
	11月	17	43	16		
	12月	17	50	11		
	1月	14	38	10		
	2月	14	32	12		
	3月	16	33	14		
	年間	16	50	10		
MP-2	4月	19	32	17	60	
	5月	20	36	18		
	6月	19	47	17		
	7月	19	35	18		
	8月	19	46	18		
	9月	19	39	18		
	10月	20	45	18		
	11月	20	48	18		
	12月	19	67	13		
	1月	16	36	13		
	2月	15	32	13		
	3月	19	36	17		
	年間	19	67	13		
MP-3	4月	16	29	13	66	
	5月	17	35	15		
	6月	17	49	15		
	7月	17	35	15		
	8月	17	48	15		
	9月	17	40	15		
	10月	17	46	15		
	11月	18	48	16		
	12月	17	66	9		
	1月	12	35	9		
	2月	12	35	10		
	3月	16	35	13		
	年間	16	66	9		

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-4	4月	17	30	14	62	
	5月	18	35	16		
	6月	17	49	16		
	7月	18	35	16		
	8月	18	49	16		
	9月	18	43	16		
	10月	18	49	16		
	11月	19	48	16		
	12月	17	69	10		
	1月	13	35	10		
	2月	13	30	11		
	3月	17	34	13		
	年間	17	69	10		
MP-5	4月	16	28	14	57	
	5月	17	34	16		
	6月	17	47	15		
	7月	17	34	15		
	8月	17	47	15		
	9月	17	40	16		
	10月	18	43	16		
	11月	18	46	16		
	12月	17	67	11		
	1月	13	32	10		
	2月	13	31	11		
	3月	16	32	13		
	年間	16	67	10		
MP-6	4月	15	27	12	62	
	5月	17	35	15		
	6月	16	51	15		
	7月	17	35	15		
	8月	17	47	15		
	9月	17	38	15		
	10月	17	45	16		
	11月	18	44	16		
	12月	16	59	9		
	1月	12	32	9		
	2月	12	33	10		
	3月	15	30	12		
	年間	16	59	9		

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-7	4月	17	30	14	69	
	5月	18	37	16		
	6月	17	54	16		
	7月	18	37	16		
	8月	18	49	16		
	9月	18	40	16		
	10月	18	50	17		
	11月	19	48	16		
	12月	18	68	10		
	1月	13	35	9		
	2月	12	35	10		
	3月	16	33	13		
	年間	17	68	9		
MP-8	4月	16	29	14	66	
	5月	17	36	15		
	6月	16	53	15		
	7月	17	37	15		
	8月	17	49	15		
	9月	17	40	15		
	10月	17	48	16		
	11月	17	46	15		
	12月	17	66	9		
	1月	12	34	9		
	2月	12	35	10		
	3月	16	32	13		
	年間	16	66	9		
MP-9	4月	18	31	16	60	
	5月	18	35	17		
	6月	18	49	16		
	7月	18	34	17		
	8月	19	46	17		
	9月	18	38	17		
	10月	19	48	17		
	11月	19	48	17		
	12月	19	68	12		
	1月	15	38	12		
	2月	14	33	12		
	3月	18	34	16		
	年間	18	68	12		

・3"φ×3"NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償型)、連続測定(1時間値)、局舎屋根(地上約6m)に設置。

・測定値は1時間値。

・測定値は、3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・「過去最大値」は、平成21～25年度までの測定値の最大値。

②大気中の気体状β放射能（クリプトン-85換算）

(単位:kBq/m³)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-2	4月	ND	ND	ND	4	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-3	4月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		

(単位:kBq/m³)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-4	4月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-5	4月	ND	ND	ND	5	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-6	4月	ND	ND	ND	11	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		

(単位:kBq/m³)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-7	4月	ND	ND	ND	16	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-8	4月	ND	ND	ND	9	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		
MP-9	4月	ND	ND	ND	3	定量下限値以上となった回数 :0回
	5月	ND	ND	ND		
	6月	ND	ND	ND		
	7月	ND	ND	ND		
	8月	ND	ND	ND		
	9月	ND	ND	ND		
	10月	ND	ND	ND		
	11月	ND	ND	ND		
	12月	ND	ND	ND		
	1月	ND	ND	ND		
	2月	ND	ND	ND		
	3月	ND	ND	ND		
	年間	ND	ND	ND		

・プラスチックシンチレーション検出器 (350×300×0.5mm)、連続測定 (1時間値)

・測定値は1時間値。

・NDは、定量下限値 (2 kBq/m³)未満を示す。

・「過去最大値」は、平成7~25年度の測定値の最大値。

・平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。すべての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と示す。

(2) 濃縮・埋設事業所モニタリングポスト (平成26年4月～平成27年3月)

①空間放射線量率 (低線量率計)

(単位:nGy/h)

測定地点	測定月	平均	最大	最小	過去最大値	備考
MP-1	4月	19	32	15	75	
	5月	20	41	18		
	6月	19	56	18		
	7月	20	40	18		
	8月	20	52	18		
	9月	20	46	18		
	10月	20	55	18		
	11月	21	54	18		
	12月	18	72	9		
	1月	11	55	7		
	2月	10	35	7		
	3月	18	39	11		
	年間	18	72	7		
MP-2	4月	22	32	21	67	
	5月	23	40	21		
	6月	23	51	21		
	7月	23	39	22		
	8月	24	50	22		
	9月	23	46	22		
	10月	24	49	22		
	11月	24	51	22		
	12月	21	65	14		
	1月	15	51	12		
	2月	17	34	14		
	3月	22	38	19		
	年間	22	65	12		
MP-3	4月	23	34	21	72	
	5月	24	41	21		
	6月	23	39	22		
	7月	24	39	22		
	8月	24	50	22		
	9月	24	46	22		
	10月	24	52	22		
	11月	24	52	22		
	12月	21	69	12		
	1月	14	51	10		
	2月	14	32	11		
	3月	22	39	15		
	年間	22	69	10		

・ 2"φ×2"NaI(Tl)シンチレーション検出器 (温度補償型)、連続測定 (1時間値)、地上約1.8m設置。

・ 測定値は1時間値。

・ 測定値は、3MeVを超える高エネルギー成分を含まない。

・ 「過去最大値」は、平成21～25年度までの測定値の最大値。

2. 再処理工場の液体廃棄物の放出量測定結果

(平成26年4月 ~ 平成27年3月)

(単位:Bq)

測定月	^3H	^{129}I	^{131}I	その他 α 線を放出する核種	その他 α 線を放出しない核種	備考
4月	2.5×10^{10} (1.5×10^8)	9.2×10^5 (4.8×10^5)	*	*	*	
5月	2.8×10^{10} (2.0×10^8)	1.4×10^6 (5.0×10^5)	*	*	*	
6月	9.0×10^{10} (2.0×10^8)	1.2×10^6 (6.2×10^5)	*	*	*	
7月	5.5×10^{10} (2.0×10^8)	9.9×10^5 (4.4×10^5)	*	*	*	
8月	7.1×10^9 (1.1×10^8)	2.3×10^5 (1.8×10^5)	*	*	*	
9月	4.0×10^{10} (3.6×10^8)	1.5×10^6 (9.3×10^5)	*	*	*	
10月	6.8×10^9 (1.0×10^8)	3.0×10^5 (1.9×10^5)	*	*	*	
11月	8.1×10^9 (1.1×10^8)	9.2×10^5 (3.8×10^5)	*	*	*	
12月	2.2×10^{10} (1.6×10^8)	7.9×10^5 (4.6×10^5)	*	*	*	
1月	2.4×10^{10} (1.7×10^8)	1.1×10^6 (6.9×10^5)	*	*	*	
2月	5.9×10^9 (6.3×10^7)	2.6×10^5 (1.3×10^5)	*	*	*	
3月	1.2×10^{10} (1.4×10^8)	2.4×10^6 (4.9×10^5)	*	*	*	
年間	3.2×10^{11} (2.0×10^9)	1.2×10^7 (5.5×10^6)	*	*	*	

- ・「その他 α 線を放出する核種」は全 α 、「その他 α 線を放出しない核種」は全 β (γ)である。
全 α 又は全 β (γ)が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。
()内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm³)に排水量(cm³)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考) その他 α 線を放出する核種及びその他 α 線を放出しない核種の核種ごとの放出量

(単位:Bq)

測定月	Pu(α)	Am(α)	Cm(α)	^{241}Pu	^{60}Co	^{106}Ru	^{134}Cs	^{137}Cs
4月	*	*	*	*	*	*	*	*
5月	*	*	*	*	*	*	*	*
6月	*	*	*	*	*	*	*	*
7月	*	*	*	*	*	*	*	*
8月	*	*	*	*	*	*	*	*
9月	*	*	*	*	*	*	*	*
10月	*	*	*	*	*	*	*	*
11月	*	*	*	*	*	*	*	*
12月	*	*	*	*	*	*	*	*
1月	*	*	*	*	*	*	*	*
2月	*	*	*	*	*	*	*	*
3月	*	*	*	*	*	*	*	*
年間	*	*	*	*	*	*	*	*

(単位:Bq)

測定月	^{154}Eu	^{144}Ce	^{90}Sr	備考
4月	*	*		
5月	*	*	*	
6月	*	*		
7月	*	*		
8月	*	*	*	
9月	*	*		
10月	*	*		
11月	*	*	*	
12月	*	*		
1月	*	*		
2月	*	*	*	
3月	*	*		
年間	*	*	*	

・ ^{90}Sr は、四半期ごとに測定し、1年分合計している。

3. 再処理工場の気体廃棄物の放出量測定結果 (平成26年4月 ~ 平成27年3月)

(単位:Bq)

測定月	^{85}Kr	^3H	^{14}C	^{129}I	^{131}I	その他 α 線を放出する核種	その他 α 線を放出しない核種	備考
4月	*	9.3×10^9 (1.7×10^9)	*	*	*	*	*	
5月	*	9.0×10^9 (2.8×10^9)	*	*	*	*	*	
6月	*	8.5×10^9 (3.9×10^9)	*	*	*	*	*	
7月	*	6.5×10^9 (4.0×10^9)	*	*	*	*	*	
8月	*	8.5×10^9 (3.9×10^9)	*	*	*	*	*	
9月	*	8.9×10^9 (3.0×10^9)	*	*	*	*	*	
10月	*	1.2×10^{10} (2.5×10^9)	*	*	*	*	*	
11月	*	9.1×10^9 (1.8×10^9)	*	*	*	*	*	
12月	*	8.9×10^9 (1.4×10^9)	*	*	*	*	*	
1月	*	8.4×10^9 (1.3×10^9)	*	*	*	*	*	
2月	*	7.5×10^9 (1.1×10^9)	*	*	*	*	*	
3月	*	8.0×10^9 (1.5×10^9)	*	*	*	*	*	
年間	*	1.0×10^{11} (2.9×10^{10})	*	*	*	*	*	

- ・「その他 α 線を放出する核種」は全 α 、「その他 α 線を放出しない核種」は全 β (γ)及び揮発性 ^{106}Ru である。
全 α 又は全 β (γ)が検出限界以上の場合は、当該試料について核種別に測定した結果を用いて算出している。
()内の数値は、測定結果が有意値となったときの検出限界濃度(Bq/cm³)に排気量(cm³)を乗じて算出した放射能(Bq)を足し合わせた量である。

(参考) その他 α 線を放出する核種及びその他 α 線を放出しない核種の核種ごとの放出量 (単位 : Bq)

測定月	Pu(α)	^{106}Ru	^{137}Cs	^{90}Sr	備考
4 月	*	*	*		
5 月	*	*	*	*	
6 月	*	*	*		
7 月	*	*	*		
8 月	*	*	*	*	
9 月	*	*	*		
10月	*	*	*		
11月	*	*	*	*	
12月	*	*	*		
1 月	*	*	*		
2 月	*	*	*	*	
3 月	*	*	*		
年 間	*	*	*	*	

・ ^{90}Sr は、四半期ごとに測定し、1年分合計している。

○放出量測定結果における検出限界濃度

(1) 液体廃棄物の検出限界濃度

(単位:Bq/cm³)

核 種	検出限界濃度
³ H	2× 10 ⁻¹ 以下
¹²⁹ I	2× 10 ⁻³ 以下
¹³¹ I	2× 10 ⁻² 以下
全 α	4× 10 ⁻³ 以下
全 β(γ)	4× 10 ⁻² 以下
Pu(α)	1× 10 ⁻³ 以下
Am(α)	6× 10 ⁻⁵ 以下
Cm(α)	6× 10 ⁻⁵ 以下
²⁴¹ Pu	3× 10 ⁻² 以下
⁶⁰ Co	2× 10 ⁻² 以下
¹⁰⁶ Ru	2× 10 ⁻² 以下
¹³⁴ Cs	2× 10 ⁻² 以下
¹³⁷ Cs	2× 10 ⁻² 以下
¹⁵⁴ Eu	2× 10 ⁻² 以下
¹⁴⁴ Ce	2× 10 ⁻² 以下
⁹⁰ Sr	7× 10 ⁻⁴ 以下

(2) 気体廃棄物の検出限界濃度

(単位:Bq/cm³)

核 種	検出限界濃度
⁸⁵ Kr	2× 10 ⁻² 以下
³ H	4× 10 ⁻⁵ 以下
¹⁴ C	4× 10 ⁻⁵ 以下
¹²⁹ I	4× 10 ⁻⁸ 以下
¹³¹ I	7× 10 ⁻⁹ 以下
全 α	4× 10 ⁻¹⁰ 以下
全 β(γ)	4× 10 ⁻⁹ 以下
Pu(α)	4× 10 ⁻¹⁰ 以下
¹⁰⁶ Ru	4× 10 ⁻⁹ 以下
¹³⁷ Cs	4× 10 ⁻⁹ 以下
⁹⁰ Sr	4× 10 ⁻¹⁰ 以下

・¹⁰⁶Ruは粒子状¹⁰⁶Ru及び揮発性¹⁰⁶Ruそれぞれに対する値を示した。

4. 気象観測結果（平成26年4月 ～ 平成27年3月）

①風速

測定地点	測定月	風速(m/sec)		備考
		平均	最大	
地上10m	4月	4.5	13.2	
	5月	4.1	13.1	
	6月	3.6	10.5	
	7月	3.2	14.4	
	8月	3.2	9.7	
	9月	2.9	9.6	
	10月	3.4	13.3	
	11月	4.3	15.8	
	12月	5.3	15.5	
	1月	5.3	14.5	
	2月	4.7	13.5	
	3月	4.7	13.6	
	年間	4.1	15.8	
地上150m	4月	8.2	19.4	
	5月	7.4	20.4	
	6月	6.4	18.9	
	7月	5.7	20.5	
	8月	6.2	18.3	
	9月	6.3	15.4	
	10月	7.1	24.0	
	11月	8.8	27.1	
	12月	9.9	22.2	
	1月	9.9	26.7	
	2月	8.7	22.0	
	3月	7.9	21.0	
	年間	7.7	27.1	

- ・「地上気象観測指針（平成14年気象庁）」に基づく1時間値。
- ・地上10m：風向風速計[超音波式]（気象庁検定付）、連続測定（1時間値）
- ・地上150m：ドップラーソーダ、連続測定（1時間値）

②降水量

測定地点	測定月	降水量 (mm)	備考
露場	4月	18.0	
	5月	82.0	
	6月	156.0	
	7月	52.0	
	8月	292.0	
	9月	61.5	
	10月	158.5	
	11月	68.0	
	12月	147.0	
	1月	63.0	
	2月	30.5	
	3月	78.0	
	年間	1206.5	

- ・「地上気象観測指針（平成14年 気象庁）」に基づく1時間値を用いて算出。
- ・雨雪量計[転倒ます型]（気象庁検定付）

③大気安定度

単位：時間数（括弧内は％）

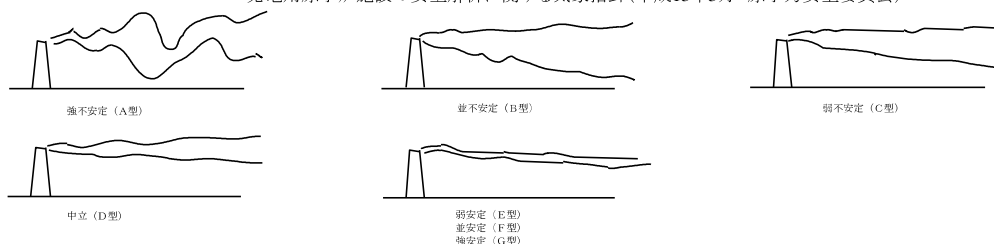
測地	定点	分類 測定月	A	A-B	B	B-C	C	C-D	D	E	F	G	計	備考
			露場	4月	7 (1.0)	13 (1.8)	36 (5.0)	17 (2.4)	126 (17.5)	22 (3.1)	324 (45.1)	44 (6.1)	49 (6.8)	81 (11.3)
5月	9 (1.2)	31 (4.2)		44 (5.9)	12 (1.6)	101 (13.6)	28 (3.8)	401 (53.9)	28 (3.8)	22 (3.0)	68 (9.1)	744 (100)		
6月	5 (0.7)	29 (4.0)		68 (9.4)	15 (2.1)	61 (8.5)	19 (2.6)	447 (62.1)	21 (2.9)	12 (1.7)	43 (6.0)	720 (100)		
7月	2 (0.3)	23 (3.4)		41 (6.0)	15 (2.2)	85 (12.4)	41 (6.0)	373 (54.4)	16 (2.3)	16 (2.3)	74 (10.8)	686 (100)		
8月	3 (0.4)	14 (1.9)		33 (4.5)	18 (2.4)	75 (10.1)	29 (3.9)	471 (63.6)	34 (4.6)	9 (1.2)	54 (7.3)	740 (100)		
9月	8 (1.1)	22 (3.1)		54 (7.5)	16 (2.2)	64 (8.9)	58 (8.1)	258 (35.8)	32 (4.4)	46 (6.4)	162 (22.5)	720 (100)		
10月	3 (0.4)	29 (4.0)		64 (8.9)	11 (1.5)	33 (4.6)	12 (1.7)	312 (43.3)	29 (4.0)	50 (6.9)	177 (24.6)	720 (100)		
11月	0 (0.0)	21 (2.9)		35 (4.9)	8 (1.1)	25 (3.5)	5 (0.7)	480 (66.7)	35 (4.9)	20 (2.8)	91 (12.6)	720 (100)		
12月	0 (0.0)	6 (0.8)		13 (1.8)	2 (0.3)	8 (1.1)	7 (1.0)	614 (87.0)	21 (3.0)	13 (1.8)	22 (3.1)	706 (100)		
1月	0 (0.0)	6 (0.8)		20 (2.8)	2 (0.3)	6 (0.8)	10 (1.4)	593 (82.6)	14 (1.9)	11 (1.5)	56 (7.8)	718 (100)		
2月	0 (0.0)	7 (1.0)		22 (3.3)	15 (2.2)	32 (4.8)	20 (3.0)	493 (73.4)	21 (3.1)	17 (2.5)	45 (6.7)	672 (100)		
3月	1 (0.1)	12 (1.7)		29 (4.0)	10 (1.4)	69 (9.6)	24 (3.3)	437 (60.8)	35 (4.9)	27 (3.8)	75 (10.4)	719 (100)		
年間	38 (0.4)	213 (2.5)		459 (5.3)	141 (1.6)	685 (8.0)	275 (3.2)	5203 (60.6)	330 (3.8)	292 (3.4)	948 (11.0)	8584 (100)		

- ・「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）」に基づく1時間値を用いて分類。
- ・風向風速計[超音波式]（気象庁検定付）、日射計[電気式]（気象庁検定付）、放射収支計[熱電対式]

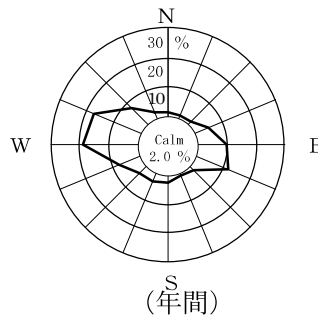
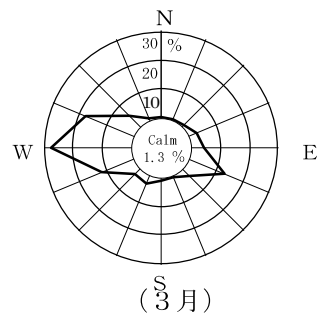
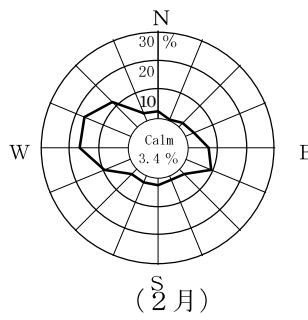
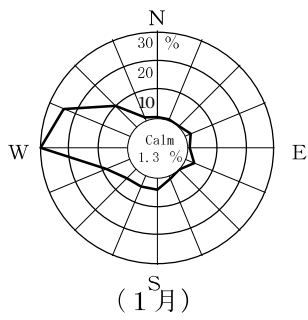
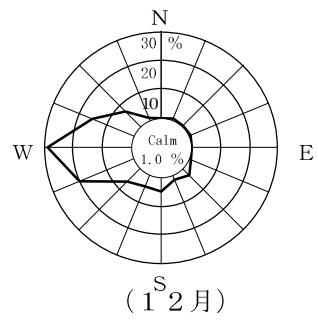
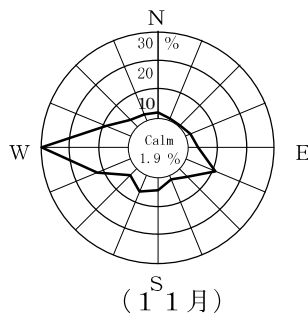
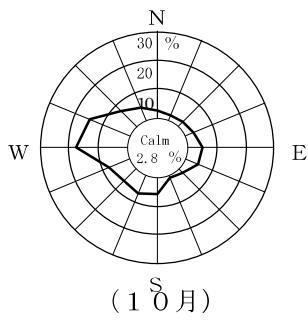
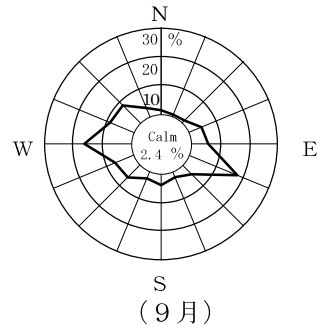
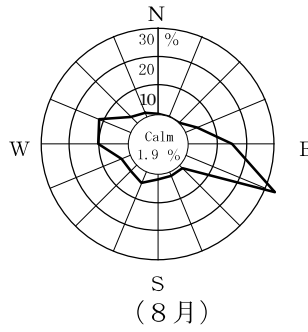
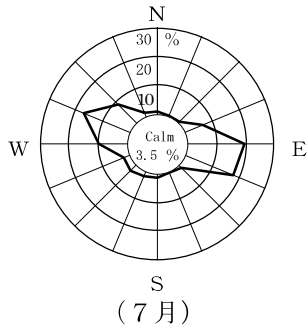
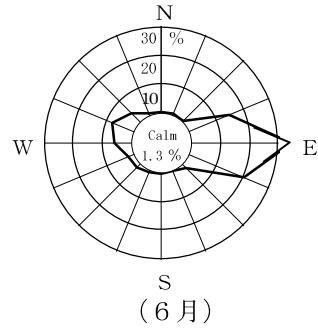
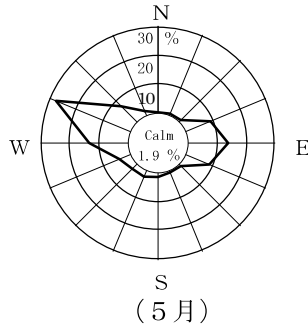
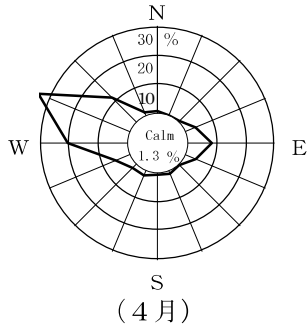
大気安定度分類表

風速 (U) m/s	日射量 (T) kW/m ²				放射収支量 (Q) kW/m ²		
	T ≥ 0.60	0.60 > T ≥ 0.30	0.30 > T ≥ 0.15	0.15 > T	Q ≥ -0.020	-0.020 > Q ≥ -0.040	-0.040 > Q
U < 2	A	A-B	B	D	D	G	G
2 ≤ U < 3	A-B	B	C	D	D	E	F
3 ≤ U < 4	B	B-C	C	D	D	D	E
4 ≤ U < 6	C	C-D	D	D	D	D	D
6 ≤ U	C	D	D	D	D	D	D

発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針（平成13年3月 原子力安全委員会）

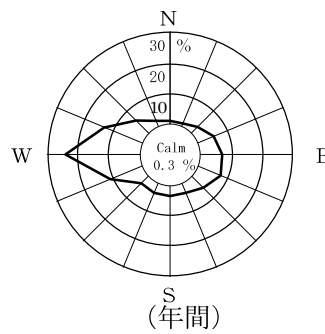
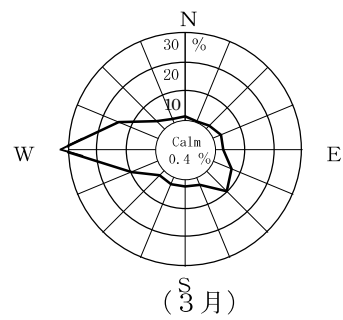
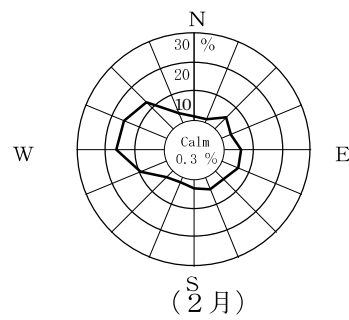
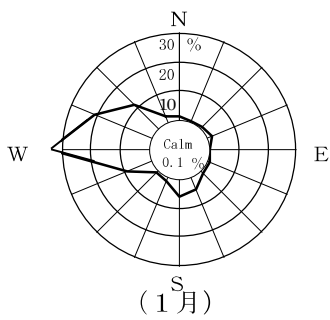
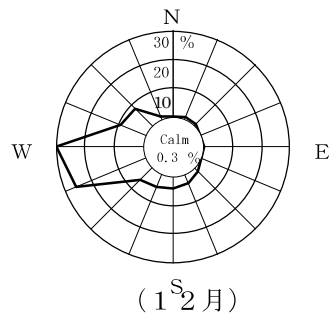
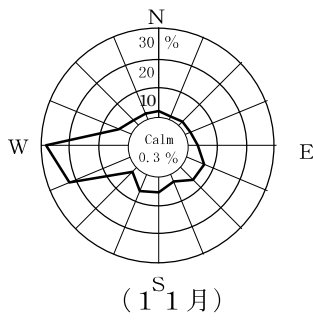
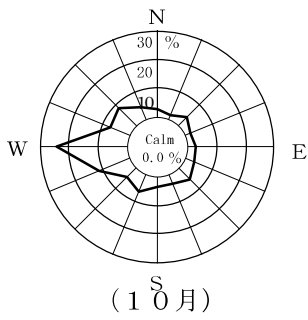
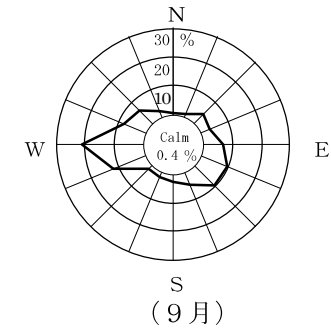
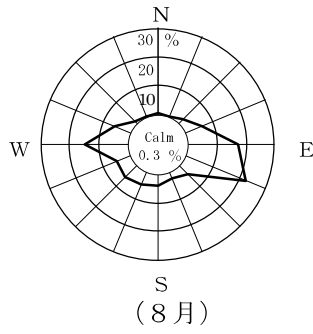
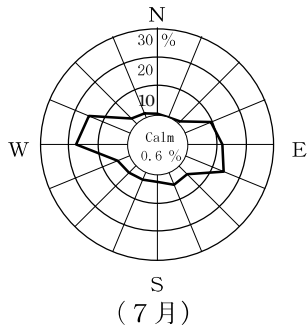
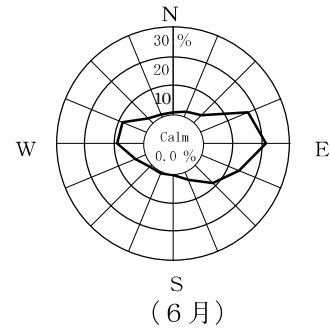
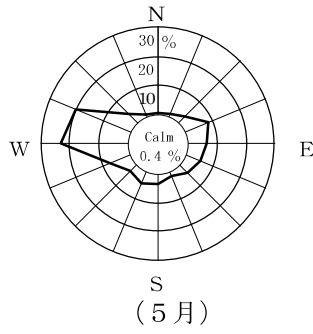
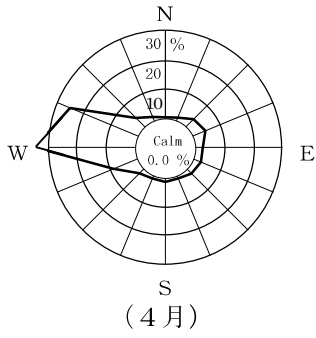


④ 風配図
 ・地上 10 m



Calm: 風速0.4m/sec以下

・地上 150 m



Calm: 風速0.4m/sec以下

5. 原子燃料サイクル施設に係る 環境放射線等モニタリング実施要領

平成	元年	3月	策定
平成	5年	3月	改訂
平成	7年	6月	改訂
平成	9年	11月	改訂
平成	13年	4月	改訂
平成	14年	4月	改訂
平成	15年	4月	改訂
平成	15年	8月	改訂
平成	17年	10月	改訂
平成	19年	3月	改訂
平成	21年	4月	改訂
平成	22年	3月	改訂
平成	23年	4月	改訂
平成	24年	3月	改訂
平成	25年	4月	改訂
平成	26年	4月	改訂

青 森 県

原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング実施要領

平成 元 年	3月策定
平成 5 年	3月改訂
平成 7 年	6月改訂
平成 9 年	11月改訂
平成13年	4月改訂
平成14年	4月改訂
平成15年	4月改訂
平成15年	8月改訂
平成17年	10月改訂
平成19年	3月改訂
平成21年	4月改訂
平成22年	3月改訂
平成23年	4月改訂
平成24年	3月改訂
平成25年	4月改訂
平成26年	4月改訂

1. 趣旨

「原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリング基本計画」により環境放射線等の測定方法、分析方法等について必要な事項を定めるものとする。

2. 測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線

項目	青森県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
モニタリングステーションによる空間放射線量率	<ul style="list-style-type: none"> 低線量率計 3" φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式 高線量率計 14 ℓ、4気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付) 	測定法:文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定(1時間値) 測定位置:地上1.8 m 校正線源: ¹³⁷ Cs	<ul style="list-style-type: none"> 低線量率計:同 左 高線量率計 14 ℓ、8気圧球形窒素ガス+アルゴンガス加圧型電離箱検出器(加温装置付) 	測定法:同 左 測定位置:同 左 校正線源: ²²⁶ Ra

項目	青森県	
	測定装置	測定方法
モニタリングポストによる空間放射線量率	<ul style="list-style-type: none"> 低線量率計 3" φ×3" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償方式加温装置付)、G(E)関数荷重演算方式 	測定法:文部科学省編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成8年改訂)に準拠 連続測定(1時間値) 測定位置:地上3.8 m(屋根上)(東北町役場、東北分庁舎、三沢市役所) 地上3.4 m(屋根上)(横浜町役場) 地上1.8 m(野辺地、砂子又) 校正線源: ¹³⁷ Cs

項目	青森県		日本原燃株式会社	
	測定装置	測定方法	測定装置	測定方法
積算線量	<ul style="list-style-type: none"> 蛍光ガラス線量計(RPLD) 	測定法:文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年)に準拠 素子数:地点当たり3個 積算期間:3箇月 収納箱:木製 測定位置:地上1.8 m 校正線源: ¹³⁷ Cs	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 	

(2) 環境試料中の放射能

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
大気浮遊じん中の 全 α 及び全 β 放射能	<ul style="list-style-type: none"> ダストモニタ 検出器 α線、β線用 50 mm ϕ ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器 	測 定 法:文部科学省編「全ベータ放射能測定法」(昭和 51 年改訂)に準拠 連続測定 集じん時間:168 時間 計 測 時 間:集じん終了後 72 時間放置 1 時間測定 集じん方法:ろ紙間けつ自動移動方式 ろ 紙:HE-40T 大気吸引量:約 100 ℓ /分 吸引口位置:地上 1.5~2.0 m 校 正 線 源: U_3O_8	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 	
大 気 中 の 気 体 状 β 放 射 能	<ul style="list-style-type: none"> β線ガスモニタ 検出器 プラスチックシンチレーション検出器 (350×300×0.5 mm×2枚) 検出槽容量 約 30 ℓ 	測 定 法:連続測定 (1 時間値) 大気吸引量:約 6.5 ℓ /分 吸引口位置:地上 1.5~2.0 m 装置設置前の初期校正線源: ^{85}Kr 装置設置後の定期校正線源: ^{133}Ba	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 	

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測定方法
機 器 分 析 γ 線 放 出 核 種	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲルマニウム半導体検出器 	<p>測 定 法: 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(平成4年改訂)に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和57年)に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂)に準拠</p> <p>測定試料形態: 降 下 物 蒸発残留物 大気浮遊じん 3箇月分のろ紙の集積 陸 水 蒸発残留物 表土、河底 } 乾燥細土 土、湖底土 } 農 産 物 灰化物 畜 産 物 灰化物(牛乳中の¹³¹Iの測定では生試料) 指 標 生 物 灰化物 海 水 と } 共沈法による沈殿物 一部湖沼水 } 海 底 土 乾燥細土 海 産 物 灰化物</p> <p>測 定 容 器: U-8 容器、マリネリ容器 測 定 時 間: 80,000 秒</p>	・同 左	
放 射 化 学 分 析 ³ H	<ul style="list-style-type: none"> ・低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 	<p>測 定 法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(平成14年改訂)に準拠 測 定 容 器: 145 mlバイアル 測 定 時 間: 500 分 (50 分、10 回測定)</p>	・同 左	<p>測 定 法: 同 左 測 定 容 器: 100 ml バイアル 測 定 時 間: 同 左</p>
放 射 化 学 分 析 ¹⁴ C	<ul style="list-style-type: none"> ・低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 	<p>測 定 法: 文部科学省編「放射性炭素分析法」(平成5年)のベンゼン合成法に準拠 測 定 容 器: 3 mlバイアル 測 定 時 間: 500 分 (50 分、10 回測定)</p>	・同 左	

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測 定 方 法
放射化学分析 ⁹⁰ Sr	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測 定 法:文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」 (平成15年改訂)に準拠 測 定 容 器:25 mm φ ステンレススチール皿 測 定 時 間:60 分	・同 左	
放射化学分析 ²³⁹⁺²⁴⁰ Pu ²³⁴ U、 ²³⁵ U、 ²³⁸ U ²⁴¹ Am ²⁴⁴ Cm	・シリコン半導体検出器	測 定 法:文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成2 年改訂)に準拠 文部科学省編「ウラン分析法」(平成14年改 訂)に準拠 文部科学省編「アメリシウム分析法」(平成2 年)に準拠 測定用電着板:25 mm φ ステンレススチール製 測 定 時 間:90,000 秒	・同 左	測 定 法: 文部科学省編「プルトニウム分 析法」(平成2年改訂)に準拠 文部科学省編「ウラン分析法」 (平成14年改訂)に準拠 文部科学省編「プルトニウム・ アメリシウム逐次分析法」(平成 2年)に準拠 測定用電着板:同 左 測 定 時 間:同 左
放射化学分析 ¹²⁹ I	・低バックグラウンド2πガス フロー計数装置	測 定 法:文部科学省編「ヨウ素-129分析法」(平成8 年)に準拠 測 定 時 間:100 分	・同 左	

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測定装置	測 定 方 法
機 器 分 析 γ 線 放 出 核 種 (大 気 中 の ¹³¹ I)	・ゲルマニウム半導体検出器	測 定 法:文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成8 年改訂)に準拠 測定試料形態:活性炭吸着物 〔 捕 集 材:活性炭カートリッジ 〕 大気吸引量:約 50 l/分 集じん時間:168 時間 吸引口位置:地上 1.5~2.0 m 測 定 容 器:U-8 容 器 測 定 時 間:80,000 秒	・同 左	

(3) 環境試料中のフッ素

項目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
大気中の気体状 フッ素	・HF モニタ	測 定 法:湿式捕集双イオン電極法 測 定 周 期:8 時間	・同 左	
フッ素	・イオンメータ	測 定 法:「JIS K 0102 工場排水試験方法」 「大気汚染物質測定法指針」 (昭和 63 年 3 月環境庁大気保全局) 「環境測定分析法註解」(昭和 60 年環境 庁企画調整局研究調整課監修) 「底質試験方法とその解説」(昭和 63 年 改訂環境庁水質保全局水質管理課編) 「衛生試験法・注解」(2005 年日本薬学 会編)に準拠	・同 左	

(4) モニタリングカーによる測定

項目	青 森 県	
	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	2" φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検出器(温度補償 方式加温装置付) G(E)関数荷重演算方式	測 定 法: 定点測定 10 分間測定 走行測定 10 秒間の測定値を 500 m ごとに平均 走行速度 30~60 km/h 測 定 位 置:地上 3.2 m (車両上)

(5) 気 象

項 目	青 森 県		日 本 原 燃 株 式 会 社	
	測 定 装 置	測 定 方 法	測 定 装 置	測 定 方 法
風向・風速	・風向風速計[プロペラ型] (気象庁検定付)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
気 温	・温度計[白金測温抵抗式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
降 水 量	・雨雪量計[転倒升方式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
感 雨	・感雨雪器[電極式]	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2、6 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:地上約 2 m
積 雪 深	・積雪計 [超音波式] (気象庁検定付) (千歳平) [レーザー式] (気象庁検定付) (尾駸、平沼、泊、吹越、 青森)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 3 m	・積雪計[超音波式] (気象庁検定付)	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
日 射 量	・日射計[熱電対式] (気象庁検定付)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 10 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
放射収支量	・放射収支計[熱電対式]	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・同 左	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
湿 度	・湿度計 [静電容量式] (尾駸) [毛髪式] (千歳平) (気象庁検定付)	測 定 法:指針※に準拠 測定位置:地上約 2 m	・湿度計[静電容量式] (気象庁検定付)	測 定 法:同 左 測定位置:同 左
大気安定度	—	測 定 法:指針※に準拠	—	測 定 法:同 左

※:「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(平成 13 年改訂 原子力安全委員会)

3. 環境試料中の放射能測定対象核種

^{54}Mn 、 ^{60}Co 、 ^{106}Ru 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{144}Ce 、 ^7Be 、 ^{40}K 、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac 、 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{90}Sr 、 $^{239+240}\text{Pu}$ 、 U 、 ^{241}Am 、 ^{244}Cm 、 ^{129}I 、 ^{131}I

なお、 ^{214}Bi 、 ^{228}Ac については、土試料のみとする。

上記核種以外で次の核種が検出された場合は、報告書の備考欄に記載する。

^{51}Cr 、 ^{59}Fe 、 ^{58}Co 、 ^{65}Zn 、 ^{95}Zr 、 ^{95}Nb 、 ^{103}Ru 、 ^{125}Sb 、 ^{140}Ba 、 ^{140}La 、 ^{154}Eu

4. 数値の取扱方法

(1) 空間放射線量率

単 位	表 示 方 法
nGy/h	整数で示す。

(2) 積算線量

単 位	表 示 方 法
$\mu\text{Gy}/91\text{日}$ $\mu\text{Gy}/365\text{日}$	3箇月積算線量は、測定期間の測定値を91日当たりに換算し、整数で示す。 年間積算線量は、各期間の測定値を合計した後、365日当たりに換算し、整数で示す。

(3) 大気浮遊じん中の全 α 及び全 β 放射能

単 位	表 示 方 法
mBq/m^3	有効数字2桁で示す。 測定値がその計数誤差の3倍以下の場合検出限界以下とし「*」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に検出限界以下のものが含まれる場合、そのときの検出限界値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が検出限界以下の場合、平均値も検出限界以下とし「*」と表示する。

(4) 大気中の気体状 β 放射能

単 位	表 示 方 法
kBq/m^3	クリプトン-85換算濃度として、有効数字2桁で示す。最小位は1位。 定量下限値は「 $2\text{kBq}/\text{m}^3$ 」とし、定量下限値未満は「ND」と表示する。 平均値の算出においては、測定値に定量下限値未満のものが含まれる場合、定量下限値を測定値として算出し、平均値に「<」を付ける。全ての測定値が定量下限値未満の場合、平均値も定量下限値未満とし「ND」と表示する。

(5) 環境試料中の放射性核種

試 料		単 位	表 示 方 法
大 気 浮 遊 じ ん		mBq/m^3	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表1に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。 計数誤差は記載しない。
大 気 (水蒸気状トリチウム)	大 気 中 濃 度	mBq/m^3	
	水 分 中 濃 度	Bq/ℓ	
大 気	ヨ ウ 素	mBq/m^3	
降 下 物		Bq/m^2	
雨 水		Bq/ℓ	
陸 水、海 水	ト リ チ ウ ム	Bq/ℓ	
	そ の 他	mBq/ℓ	
河 底 土、湖 底 土、表 土、海 底 土		Bq/kg 乾	
牛 乳		Bq/ℓ	
農 産 物、淡 水 産 食 品、 海 産 食 品、指 標 生 物	ト リ チ ウ ム (自 由 水)	Bq/kg 生、 Bq/ℓ	
	炭 素 - 1 4	Bq/kg 生、 Bq/g 炭 素	
	そ の 他	Bq/kg 生	

(6) 環境試料中のフッ素

試料	単位	表示方法
大気	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	有効数字2桁で示す。最小位は定量下限値の最小の位。 定量下限値は別表2に示す。 定量下限値未満は「ND」と表示する。
大気(気体状フッ素:HF モニタ)	ppb	
陸水	mg/ℓ	
河底土、湖底土、表土	mg/kg 乾	
牛乳	mg/ℓ	
農産物、淡水産食品	mg/kg 生	

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表2 環境試料中のフッ素の定量下限値

試料	単位	定量下限値
大気	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.03
大気(気体状フッ素:HF モニタ)	ppb	0.04
陸水	mg/ℓ	0.1
河底土、湖底土、表土	mg/kg 乾	5
牛乳	mg/ℓ	0.1
農産物、淡水産食品	mg/kg 生	0.1

・大気：粒子状フッ素及びガス状フッ素の合計。

別表1 環境試料中の放射性核種の定量下限値

試料	単位	γ線放出核種										³ H	¹⁴ C	⁹⁰ Sr	¹²⁹ I	¹³¹ I	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	U	²⁴¹ Am	²⁴⁴ Cm	備考
		⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	⁷ Be	⁴⁰ K	²¹⁴ Bi	²²⁸ Ac										
大気浮遊じん	mBq/m ³	0.02	0.02	0.2	0.02	0.02	0.1	0.2	0.3	-	-	-	-	0.004	-	-	0.0002	0.0004	-	-	
大気 (水蒸気状トリチウム)	mBq/m ³ (大気中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Bq/ℓ(水中濃度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
大気 (ヨウ素)	mBq/m ³	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-	-	-	-	
降下物	Bq/m ²	0.2	0.2	2	0.2	0.2	1	2	4	-	-	-	-	0.08	-	-	0.004	0.008	-	-	
雨水	Bq/ℓ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
陸水	mBq/ℓ	6	6	60	6	6	30	100	100	-	-	2	-	0.4	-	-	0.02	2	-	-	
海水	(³ HはBq/ℓ)	6	6	60	6	6	30	100	-	-	-	2	-	2	-	-	0.02	2	-	-	
河底土、海底土、表土	Bq/kg 乾	3	3	20	3	3	8	30	40	8	15	-	-	0.4	5	-	0.04	0.8	0.04	0.04	
湖底土		4	4	30	4	4	15	40	60	10	20	-	-	0.4	-	-	0.04	0.8	0.04	0.04	
牛乳	Bq/ℓ	0.4	0.4	4	0.4	0.4	1.5	6	6	-	-	-	-	0.04	-	-	-	0.02	-	-	
農産物、淡水産食品、 海産食品、指標生物	Bq/kg 生	0.4	0.4	4	0.4	0.4	1.5	6	6	-	-	2	2	0.04	-	-	0.002	0.02	-	-	
	Bq/ℓ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Bq/g 炭素	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.004	-	-	-	-	-	-	-	

- ・陸水：河川水、湖沼水（小川原湖）、水道水、井戸水。
- ・海水：海水、湖沼水（尾駁沼、鷹架沼）。
- ・Uは²³⁴U、²³⁵U及び²³⁸Uの合計。
- ・魚類（ヒラメ、カレイ）中の³Hは、自由水中の³H。

5. 試料の採取方法等

試料	採取方法等
大気浮遊じん	ろ紙（HE-40T）に捕集する。
大気中の水蒸気状トリチウム	モレキュラーシーブに捕集する。
大気中のヨウ素	活性炭カートリッジに捕集する。
大気中のフッ素	メンブランフィルター及びアルカリろ紙に捕集する。
降下物	大型水盤で採取する。
雨水	降水採取器で採取する。
河川水、湖沼水	表面水を採取する。
水道水、井戸水	給水栓から採取する。
河底土、湖底土	表面底質を採泥器等により採取する。
表土	表層（0～5 cm）を採土器により採取する。
牛乳	原乳を採取する。
精米	玄米を精米して試料とする。
ハクサイ、キャベツ	葉部を試料とする。
ダイコン、ナガイモ、バレイショ	外皮を除き、ダイコン及びナガイモは根部を、バレイショは塊茎部を試料とする。
牧草	地上約 10 cm の位置で刈り取る。
松葉	二年生葉を採取する。
海水	表面海水を採取する。
海底土	表面底質を採泥器により採取する。
ワカサギ、ヒラツメガニ	全体を試料とする。
ヒラメ、カレイ、イカ	頭、骨、内臓を除き、可食部を試料とする。
アワビ	貝殻、内臓を除き、軟体部を試料とする。
ホタテ、シジミ、ムラサキイガイ	貝殻を除き、軟体部を試料とする。
コンブ、チガイソ	根を除く全体を試料とする。
ウニ	殻を除き、可食部を試料とする。

